

2019 年度 学校評価委員会報告書

学校評価委員会（自己点検・自己評価）の第 1 回 学校関係者評価を行いました。その結果を下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員会

評価委員

山田和敏・・・久留米大学経済学部教授（「統計学」非常勤講師）
吉武峰子・・・八女学院高等学校 講師（「国語」非常勤講師）
関屋京子・・・筑後市立病院 看護部長（実習病院看護部長）
田中桂介・・・柳育会柳病院 在宅支援管理者（同窓会会長）
内藤信也・・・学生保護者

学校側

永田一良・・・学校長
大橋輝明・・・学校担当理事
高治智美・・・副学校長
田中恵子・・・准看護科教務主任
深町昌子・・・看護科教務主任
諫山洋己・・・事務長
安藤明美・・・事務次長（進行）

2. 日時 : 2019 年 7 月 26 日（金）

3. 議題

- 1) 学校評価委員会実施要項について（高治）
 - ・自己点検自己評価ガイドライン
 - ・評価方法
- 2) これまでの取り組みの経緯について（高治）

准看護科・看護科の自己点検自己評価結果は、ホームページにて公表
- 3) 平成 30 年度 准看護科重点課題に対する評価について（田中）

内容は、ホームページにて公表
- 4) 2019 年度 重点課題准看護科（田中）

ホームページにて公表
- 5) 平成 30 年度 看護科重点課題に対する評価について（深町）

ホームページにて公表
- 6) 2019 年度 重点課題看護科（深町）

ホームページにて公表

7. 意見交換

学校側の説明を受けて、各委員からの質問や意見

質問・意見	回答
1. 自己点検自己評価の評価基準については、他校も3段階で行っているか？	・H23年度に看護教育問題研究会が示した「看護教育自己評価指針」に則って3段階で取り組んでいる。 ・他校の情報は得ていないが、同じように参考にしている学校は多いのではないかと思う
2. 他校との比較はできるか？	同じ指針に則っている学校なら出来るが、看護教育の課程が違くと難しい。HP等で、同じ2年課程での情報収集は出来ると思われる。
3. 2019年度の重点課題については、具体的に数値目標として目標設定は「実現可能な目標」を掲げていいのではないか。	准看護科・看護科での説明にもあったように、看護大学の増加、18歳人口の減少、他職種の求人倍率の上昇の影響を受けて、准看護科の学生確保は厳しく、他校でも同様の状況。これを受けて、2年課程である看護科も受験者が減ってきており、予測がつかない。数値で示すのは難しい状況である。
4. ガイドラインの評価項目に対する「資料」は、根拠となる資料を掲載する必要があるが、空白になっている項目は？	ガイドラインの評価項目が空白になっている所は、資料として示せるものが無い、又は実施できていない等である。今後空白の部分は見直していきたい。
5. 学生は進学しやすくなっている環境において、緊張感がなくなっているのではないか。	以前の状況に比べると、応募者数の減少により、入試で学生を選べなくなっている。その為、入学後に指導を要する学生も以前に比べると増えているように感じている。
6. 学校として地域にどういった人材を残していくかを明確にし教育に取り組んでいけばいいのではないか。	医師会立の学校としてこの八女筑後地域の医療・看護の質の向上を目的に看護教育に取り組んでいる。 地域との交流を図ることを目的に、学生は教科外活動としてボランティア活動に積極的に参加している。また、この地域（医師会管内）に就職した卒業生から病院説明に来て頂き、就職に繋げている。
7. 学生募集について、新卒の学生を確保することが厳しくなっている中、社会人に対して戦略（解決策）を掲げる事が重要ではないか？	社会人の学生を確保することの重要性は認識しているが、広報活動としては、市の広報誌に掲載している。他の方法についても検討していきたい。

8. 広報活動の達成状況は？	様々な取り組みをしているが、学生確保という点では実状は減少している。
9. 数値目標を掲げると解決が厳しくなる。独自の目標を立てることが優先では？（例：アンケート評価で〇点以上というように）	具体的に数値で示せるといいのだが、実際は難しい。学生にはアンケート等を実施しているので、今後検討していきたい。
10. 准看護科の今年度から推薦入試を設けたことは良かったと思う。高校生にとって、大学の指定校推薦は魅力である。適正が有る無し別として、推薦制度は意味があるものだと思う。	

今後、評価委員の意見を反映させ、准看護科・看護科の教育の質を高めるよう、2019年度重点課題に取り組んでいくことを、全体で確認しました。